

国語科学習指導案

I 単元 『きつねの窓』について想像したことをみんなで聞き合おう（『きつねの窓』）

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

積極的に友達と関わりながら、想像したこと同士を結び付けて登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像し、物語を読み味わおうとする態度

①知識・技能

登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像するために必要な描写についての知識及び、それをを用いる技能

②思考力・判断力・表現力等

場面の状況について想像したことを、他の想像したこと同士を結び付けて、登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像し、表現する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1)

ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

(3) 単元の価値

本単元では、『きつねの窓』（教出6年）の場面の状況について想像したことを聞き合う学習を行う。教材として『きつねの窓』を用いる価値及び、言語活動として場面の状況について想像したことを聞き合うことの価値は以下のとおりである。

『きつねの窓』は、ファンタジー作品である。物語の語り手である猟師の「ぼく」は、突然迷い込んだ非日常世界の中で、子どもの姿に化けたきつねと出会う。そのきつねが作った、二度と会うことのできないはずの大切なものに会うことができる不思議な「きつねの窓」をきっかけに、「ぼく」は徐々に獲物であるはずのきつねに心を寄せていく。

この作品では、ファンタジー作品の構成の特徴である、「日常世界」と「非日常世界」との行き来が明確に描かれている。そして、「非日常世界」を象徴する色として「青」を表す言葉が繰り返し使われている。また、「まるで、みがき上げられたガラスのように」「ボールが転がるように」といった、比喩表現も多く使われている。物語を読み進める中でこのような表現に触れることは、登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像するために必要な描写についての知識を増やし、それをを用いる技能を高めることにつながる。

また、この作品には、「立ちすくむ」「うやうやしい」等の、場面の状況を想像する際に手掛

かりとなる描写が多く用いられている。それらの複数の描写を根拠として場面の状況を想像し、想像したことを聞き合うことは、想像したこと同士を結び付けて登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像する力や、想像したことを表現する力を高めることにつながる。

子どもたちの既有知識や読書経験は様々であり、同じ物語を読んでも想像する世界は異なっていることが多い。まして、「非日常世界」の想像では、子ども同士の相違が表れやすいため、聞き合う必要感をもちやすい。また、子どもたちが互いの想像を聞き合い、自分の想像との相違点に気付くことにより、新たな想像や、新たな問いが生まれる。そのため、想像したことを聞き合うことは、積極的に友達と関わりながら、想像したこと同士を結び付けて登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像し、物語を読み味わおうとする態度を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「物語の世界を読み味わおう」(『やまなし』『イーハトーヴの夢』)における、物語の全体像に関わる描写を根拠に想像した場面の状況を聞き合う学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「感想をまとめよう」(『カレーライス』)において、場面の状況を表す描写を根拠に登場人物の心情や相互関係等を想像したことについて感想にまとめる学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった、子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 物語に用いられている言葉の文脈に合った意味や使われ方に気付き、登場人物の心情や相互関係等を想像する際に用いることができた。このような子どもたちが、『きつねの窓』に使われている比喩表現や人物の様子に関わる描写の工夫に気付き、登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像する際に用いることができるよう、想像に必要な描写を捉える手段として、「(登場人物に) なって感じる」「(登場人物を) 見て気付く」の視点を提示する。
- ② 登場人物の心情や相互関係等を、想像したこと同士を結び付けて具体的に想像することができるようになっていく。このような子どもたちが、登場人物の人物像や出来事の様子等を、想像したこと同士を結び付けながら具体的に想像することができるよう、描写を根拠に想像したことを書き込む、ペアで1枚の本文シートを用意する。
- ③ 具体的に想像を広げながら物語を読むことのよさを感じ、目的に向かって主体的に学習に取り組むことができた。このような子どもたちが、『きつねの窓』の場面の状況について想像したことを聞き合うという目的に向かって主体的に学習に取り組めるよう、場面の状況を具体的に想像することに向けた課題の解決状況を単位時間の終末に振り返る機会を、単元を通して設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 第1場面④の状況について想像したことを聞き合う活動を通して、「ぼく」の様子や「ぼく」と「子ぎつね」の関わりについて想像したこと同士を結び付け、登場人物の人物像や出来事の様子等をより具体的に想像することができる。
- 2 準備 想像の視点を示した本文シート 振り返りシート

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」の気持ちがだんだんきつねに近くなっていったことが想像できたね。今日は「ぼく」がきつねの窓を手に入れる場面について想像していきたいね。 ・窓を手にした「ぼく」はどんな様子かな。 <p>2 本時学習する場面の状況について想像したことを聞き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり、ていねいに」とあるから、指が染まるまでの間は結構待ったのかもしれないな。その間、「ぼく」は「何が見えるか」考えていたのかな。 ・「胸をときめかせて」とあるから、早く作ってのぞきたかったのだろうね。でも、友達の言うように、「おそるおそる」ってあるから、窓を見るまでには少し時間がかかっていそうだな。 ・「おそるおそる」って、手が震えているイメージがあるね。不安だったのかな。 ・ここで見えた女の子って、最初の場面を考えていた女の子と同じ子だよな。「決して会うことのできない」って、死んでしまったのかな。そういえば、きつねの窓に映ったのも死んだ母ぎつねだね。 ・「独りぼっち」という言葉がはっきりしないグループがあるのか。そうか、「ぼく」は独りきりで寂しいから、窓に何が映るかは重要だったんだ。それで「おそるおそる」か。友達の言うように、猟に必要な鉄砲を渡すくらいなものね。 <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む前よりも「ぼく」の「窓」への期待の大きさがはっきりしたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語をより具体的に想像することについての解決状況を想起できるよう、前時の振り返りの記述と本時に考えたいことをペアで伝え合うよう促す。 ○第1場面④の状況に関する問題意識をもてるよう、場面の状況を具体的に想像することが難しい部分を問いかける。 ○想像の根拠となる描写を友達と共有できるよう、想像の視点を示した本文シートをペアで1枚用いながら、想像したことを書き込むよう促す。 ○想像したことをペア同士で交流できるよう、ペア同士の机が向かい合わせに配置された場を設定する。 ○想像するために必要な描写に着目できるよう、「なっ感じる」「見て気付く」の視点をを用いているペアを全体に紹介する。 ○場面の状況を具体的に想像することが難しいペアが具体的に想像するためのヒントを得られるよう、前時までには想像したことや用いた視点をまとめた模造紙を掲示しておく。 ○自分たちのペアと他のペアの想像したこと同士を結び付けて、より具体的に想像することができるよう、複数のペアに共通する、登場人物の人物像や出来事の様子等を想像することに関わる問いを、全体に紹介する。 <div data-bbox="767 1554 1401 1805" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p>登場人物の人物像や出来事の様子等について、想像する際の視点を基に想像したこと同士を結び付け、具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。＜発言・本文シート＞</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の達成感や課題を実感できるよう、場面の状況を具体的に想像することについての解決状況を振り返りシートに記述するよう促す。

指導と評価の計画（全9時間）

目標	場面の移り変わりや表現の効果を捉え、登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像することができる。			
評価規準	(①知識・技能) 場面の様子を登場人物の内側や外側から眺め、描写の工夫に気付いたり、具体的に想像する際に描写を用いたりしている。 (②思考力・判断力・表現力等) 登場人物の人物像や出来事の様子等を、想像したこと同士を結び付けて具体的に想像している。 (③主体的に学習に取り組む態度) 友達と考えを聞き合いながら、登場人物の人物像や出来事の様子等を具体的に想像し、表現しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○『きつねの窓』と出会い、言語活動「想像をより具体的にするために、想像したことを聞き合う」を知る。	○単元の学習に対する必要感をもてるよう、物語を読むことの学習における既習事項と、初発の感想を比較する際の視点として、「これまでに学んだこと」「これから学びたいこと」を提示する。	◇「登場人物の心情」「相互関係」等の、物語を読むことの学習で学んだことに関わらせて、物語の感想を記述している。 <発言・ノート③>
	1	○『きつねの窓』の初発の感想を基に、学習課題「『きつねの窓』のぼんやりした景色をはっきりさせよう」をつかみ、学習の見通しをもつ。	○『きつねの窓』を読んで想像することに対する問題意識をもてるよう、物語の場面の状況を具体的に想像することに関わる判断基準として、「ぼんやり」「はっきり」を提示する。	◇『きつねの窓』に対して、場面の状況を具体的に想像していきたい旨を発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート③>
ふかめる	6	○場面ごとに、登場人物や登場人物を取り巻く状況について、想像したことを友達と聞き合う。(本時4/6) ・第1場面① (最初～P.13 L.3) ・第1場面② (P.13 L.4～P.16 L.3) ・第1場面③ (P.16 L.4～P.19 L.11) ・ 第1場面④ (P.19 L.12～P.22 L.10) ・第1場面⑤ (P.22 L.11～P.26 L.1) ・第2場面、第3場面 (P.26 L.3～最後)	○物語の場面の状況を具体的に想像できるよう、想像する際の視点として、「(登場人物に) なって感じる」「(登場人物を) 見て気付く」を提示する。	◇登場人物の人物像や出来事の様子等について、想像する際の視点を基に想像したこと同士を結び付け、具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート>
ふりかえる	1	○単元の学習を振り返り、今後の物語の読み方について話し合う。	○単元の学習の達成感を得られるよう、単元の最初と最後に書いた感想や疑問を比較する際の視点として、「はっきりしたこと」を提示する。	◇物語について想像したことがより明確になったことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>